

# ITシステム全体の運用管理を自律化

企業のITシステムが複雑さを増しているなか、運用管理の自動化・自律化は、業務の効率向上やコスト削減につながる重要な課題です。そこで日立はITインフラの運用・管理を自律化するソフトウェアを強化。ストレージの導入・運用時の設定時間を最短1/10に短縮します。

## アプリケーションからストレージまでの運用を自律化

近年、ITシステムの運用管理にかかる管理者の手間と負担が増加しています。ITスキルの高い人材確保も難しい状況となるなかで、多くの企業では自動化・自律化によりITシステムの安定稼働や業務継続性を求める声が高まっています。

そこで日立はITインフラ運用自動化ソフトウェア「Hitachi Automation Director」(以下、HAD)を強化し、アプリケーションからストレージまで、ITシステム全体の自律運用・管理機能を強化しました(図1)。

具体的には、国内で豊富な導入実績を持つ統合システム運用管理「JP1」との連携を可能にする「Automatic Storage Operation for JP1」を提供し、IT運用を自動化するJP1/Automatic OperationとHADの連携を実現。これにより、アプリケーションからサーバ、スイッチ、ストレージまでの運用を自動化し、より迅速なリソース割り当てや、運用コストや操作ミスの低減を可能としました(図2)。

これらのソフトウェアを活用した、お客さま環境の効果検証では、ストレージの導入・運用時の設定に要する時間を最短1/10に短縮。約70%の手動操作を削減できました。

### 運用自律化の範囲をストレージまで拡張

- アプリケーションからストレージまでの運用を自律化
- 迅速なリソース割り当て、運用コスト削減、操作ミスの低減を実現
- ストレージ運用自動化コンサルテーションも実施

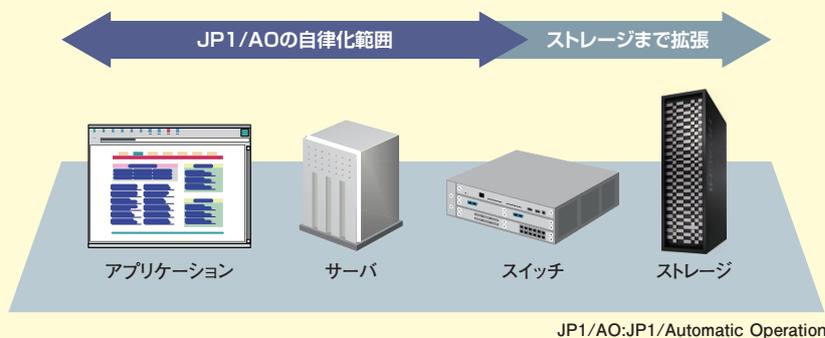


図1 統合システム運用管理「JP1」と連携し、ITシステム全体の運用を自律化

### JP1/AO(IT運用自動化)



### Hitachi Automation Director (ストレージ運用自動化)

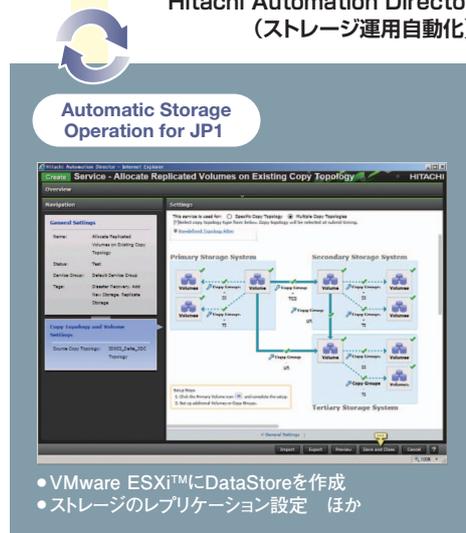


図2 IT運用自律化基盤からストレージコンテンツの操作が可能

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 ITプロダクツ統括本部  
<http://www.hitachi.co.jp/storage/>